P3-4　宮城県がん登録の届出エラー件数からみた支援の在り方の検討

目崎はる香[1]　片桐優希[1]　植野由佳[1]　佐藤洋子[1]　齋藤美登里[1]　金村政輝[1, 2]

1　宮城県立がんセンター宮城県がん登録室
2　宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部

【目的】

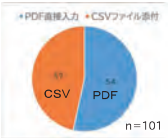
- 宮城県では、新型コロナウィルス流行前から、全国がん登録届出実務者の支援として、新任者向け説明会を開催してきた。
- 新型コロナウィルス流行後は説明会の開催が難しく、新たに手引きを作成し、県内医療機関へ配布し対応している。
- 今後の支援の在り方について検討するため、届出経験の有無と届出エラー件数の関連を調査した。

【方法】

(1) 調査対象施設

- 電子届出票（PDF）へ直接入力している 54 施設（届出対象施設の40%）を、届出経験年数別に分類した。

届出経験 1 年	12 施設
届出経験 2 年	4 施設
届出経験 3 年以上	38 施設



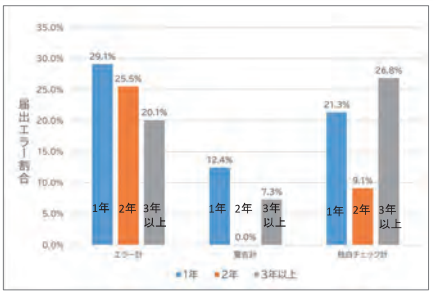
(2) 比較対象の届出エラー

- 以下の3つの届出エラー件数を比較対象とし、届出件数に対する届出エラー件数の割合を算出した。

① エラー　（E4002…）
システムのチェックでかかる修正必須のもの
② 警告　（W1010…）
システムのチェックでかかる修正が必須でないもの
③ 独自チェック項目
精度向上のため独自にチェックした項目

【結果】

(1) 届出経験年数別届出エラー割合



(2) エラーの詳細

赤字：当該年毎の最高値

エラー番号	1年	2年	3年以上	エラー内容
E4002	1.6%	0.0%	4.9%	側性と局在コード(側性あり)の矛盾
E4003	63.1%	0.0%	14.2%	側性と局在コード(側性なし)の矛盾
E4004	2.1%	0.0%	4.4%	側性(両側)と局在コードの矛盾
E4005	3.2%	0.0%	3.5%	局在コードと進展度・治療前の矛盾
E4006	3.7%	0.0%	2.2%	局在コードと進展度・術後病理学的の矛盾
E4009	0.0%	14.3%	4.9%	組織形態コードと診断根拠の矛盾
E4010	0.0%	7.1%	14.2%	性状(3)と進展度・術後病理学的の矛盾
E4012	0.0%	0.0%	1.3%	性状(2)と進展度・治療前と観血的治療の範囲の矛盾
E4013	0.0%	0.0%	12.4%	性状(3)と進展度・治療前と観血的治療の範囲の矛盾
E4014	6.4%	21.4%	12.4%	治療施設と進展度・術後病理学的の矛盾
E4015	2.1%	0.0%	0.9%	治療施設と初回治療の矛盾
E4017	3.7%	0.0%	0.0%	診断日と届出票受付日の矛盾
E4018	1.1%	14.3%	2.2%	診断日と死亡日の矛盾
E4020	4.8%	42.9%	18.1%	観血的治療と進展度・術後病理学的の矛盾
E4021	7.5%	0.0%	3.5%	観血的治療と観血的治療の範囲の矛盾
E4024	0.5%	0.0%	0.0%	局在コードと診断根拠の矛盾
E4025	0.0%	0.0%	0.9%	性状(2)と進展度・術後病理学的の矛盾

E4003（側性の矛盾）

側性のない原発部位に対して、側性を左・右・不明のいずれかで登録すると発生する。

例　原発部位が甲状腺（C73.9）の場合
　　側性　1.右 ×　7.側性なし ○

E4020（観血的治療と進展度・術後病理学的の矛盾）

観血的治療の範囲がなしの場合に、進展度・術後病理学的を400.上皮内～440.遠隔転移または499.不明で登録すると発生する。

例　観血的治療の範囲が6.観血的治療なしの場合
　　進展度・術後病理学的　410.限局 ×
　　660.手術なし・術前治療後 ○
　　または777.該当せず ○

(3) 警告の詳細

赤字：当該年毎の最高値

警告番号	1年	2年	3年以上	警告内容
W1010	0.0%	-	4.9%	識別不可文字が存在
W3005	2.5%	-	0.0%	外国人登録の可能性
W3009	3.8%	-	6.1%	住所が不詳
W4001	0.0%	-	1.2%	局在コードと性別が矛盾
W4004	1.3%	-	1.2%	局在コードと年齢が矛盾
W4007	6.3%	-	11.0%	側性(両側)と病理診断コードが矛盾
W4009	5.0%	-	1.2%	局在コードと病理診断コードの組み合わせが稀
W4012	67.5%	-	59.8%	診断根拠と病理診断コードの矛盾
W4013	3.8%	-	2.4%	局在コードと進展度・治療前(777)の矛盾
W4014	1.3%	-	3.7%	局在コードと進展度・術後病理学的(777)の矛盾
W4015	0.0%	-	6.1%	性状(3)と進展度の矛盾
W4016	0.0%	-	1.2%	性状(2)と進展度の矛盾
W4017	0.0%	-	1.2%	診断日と生年月日が同日
W4019	8.8%	-	0.0%	治療施設が8(その他)

W4012（診断根拠と病理診断コードの矛盾）

病理診断コードが病理学的診断の時に用いてよいコードで診断根拠が4.腫瘍マーカー～9.不明を登録すると発生する。

例　病理診断コードが腺癌（8140/3）の場合
　　診断根拠　5.臨床検査 ×　1.原発巣の組織診 ○
　　2.転移巣の組織診 ○
　　3.細胞診 ○

(4) 独自チェック項目の詳細

赤字：当該年毎の最高値

独自チェック番号	1年	2年	3年以上	チェック内容
チェック1	24.1%	0.0%	8.3%	診断施設が2、治療施設が4で消長度・治療前が499.不明以外
チェック2	3.6%	20.0%	1.3%	診断施設が1、治療施設が4
チェック3	5.8%	20.0%	4.0%	造血器腫瘍で診断根拠が5～9
チェック4	21.9%	0.0%	27.2%	診断時住所（診断時住所コードと住所テキストが一致しているか確認）
チェック5	1.5%	0.0%	0.3%	氏名と性別（性別の誤りがないか確認）
チェック6	1.5%	0.0%	6.0%	診断日（届出対象年以外の症例が混在していないか確認）
チェック8	17.5%	0.0%	9.3%	造血器腫瘍以外で治療施設が3の場合、初回治療に関する項目が全て2.施行なし
チェック10	2.2%	0.0%	2.0%	局在コードと局在テキスト及び備考の記載
チェック11	9.5%	0.0%	31.8%	病理診断コードと病理診断テキスト及び備考の記載
チェック12	0.7%	20.0%	4.6%	診断根拠が6.臨床診断（診断根拠に誤りがないか確認）
チェック13	0.7%	0.0%	0.0%	初回治療に関する項目が9.不明
チェック14	5.1%	40.0%	4.6%	備考の記載（届出票の内容と矛盾がないか確認）
チェック15	2.2%	0.0%	0.3%	原発部位が中葉で側性が2.左または9.不明
チェック16	1.5%	0.0%	0.3%	治療施設が2、進展度・術後治療後が60、その他治療の全てが2で観血的治療のいずれかが1
チェック18	2.2%	0.0%	0.0%	その他の治療が1.自施設で施行（経過観察や緩和ケアを含って登録していないか確認）

チェック11

病理診断コードと病理診断テキスト及び備考の記載に矛盾

例　病理診断コード：管状腺癌（8211/31）
　　病理診断テキスト：por>tub1
　　☞管状腺癌（8211/31）とpor（8140/33）のどちらが正しいのか届出施設へ確認☑

チェック14

届出票の内容と備考の内容の矛盾

例　診断日：2022年2月2日
　　備考：2022/2/2当院初診、2022/2/10大腸内視鏡検査で病変を認め生検を実施し管状腺癌の診断。
　　☞診断日の解釈に誤りがないか届出施設へ確認☑

【考察】

- エラーは届出経験年数が上がるほど減少傾向であったが、独自チェック項目は、経験年数が3年以上の割合が最も高かった。
- 届出経験年数によって届出エラーが減少するものと、一定の割合で届出エラーが発生するものがあることが分かった。
- 届出項目の届しい理解を促すため、届出エラーのフィードバック等が必要と考えられる。
- 届出エラーのフィードバックは、対面集合型方式ではなく、解説動画を作成し配信することも支援の一つと考える。
- 届出担当者の負担が少ない形の支援ができるように検討していきたい。

日本がん登録協議会　第32回学術集会　COI開示　筆頭演者名：目崎はる香
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。